

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	芝 正己		所 属	農学部 亜熱帯地域農学科	
職 名			職 名	教授	
領 域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	・教育活動の主体は、フィールド科学教育研究センターの実習教育メニューである「基礎フィールド実習:分担」、「フィールド実習Ⅲ:分担」、「亜熱帯林体験実習:分担」、学科(亜熱帯地域農学)構成コースの農林共生学分野の提供科目である「国際森林・林業論:単独」、「森林人間文化論:単独」、「森林情報計測学:分担」、「外書文献講読:分担」、その他、学科共通提供科目の「動植物人間関係学:分担」、学部共通科目の「食・農・環境概論」等に基づく。実習・講義内容の向上を目標に、教材や文献資料の作成の充実を図る。学生の授業評価結果を精査して講義方法や内容の課題点の改善に努力する。	0.20	・フィールドセンター担当の各実習に関しては、実施方法、実習内容、評価法など、いずれもシラバスに沿った形でできた。座学の講義に関しては、配布資料の内容、ビデオを使った視聴覚講義などに工夫した結果、学生の授業評価もほぼ満足できるものであった。なお、実習の準備や資料の作成等についての分担教員や補助技術職員との事前・事後の打合せ等、特に問題となる点は見られなかった。年次指導教員としての学生指導・助言等については十分に対応できたと思う。学生指導は重要な業務部分であり時間外でも対応できるように今後も工夫に努めたい。連合大学院博士課程学生(2名:主指導及び副指導担当)については、文献調査、学会発表、論文投稿等の指導を行った。研究室分属4年生(3名)の卒論指導並びに就職相談、3年生(6名)の教育指導等を積極的に行った。大学院生、学部学生とも教育面については概ね計画通りに遂行できたと評価される。	
研究	0.20	・主要な学会・研究集会の対象は、国内が日本森林学会(全国大会・支部大会)、森林利用学会、亜熱帯森林・林業研究会、海外が COFE(米国民林業工学協議会)、IUFRO(国際森林研究機関連合)等である。国内学会等については出来るだけ参加発表を行い、特に重要な論文については学会誌への投稿を準備する:大学院修士課程、並びに博士課程の学生と共にそれぞれの研究内容に沿った研究論文の採択を目指す。	0.15	・主要な国内学会である日本森林学会及び九州森林学会の年次大会、また、県内の研究会(亜熱帯森林・林業研究会)で口頭発表を行った。連大指導学生に対する研究指導として前述の各学会での口頭発表を指導した。海外学会活動については、IJFE(米国)の編集委員及びCOFE(米国)海外委員を引き続き担当している。また、マレーシアUPM大学の学外論文審査委員、マレーシア林業試験場FRIM国際論文審査委員、インドネシアBIODIVERSITAS誌、マレーシアTHE MALYSIAN FORESTER誌の国際論文審査委員を務めた。研究面については昨年と同様な実績を達成できたが、外部資金等の獲得は出来なかった。	
社会 貢献	0.15	・学外の審議会、委員会のメンバーとして、国関係では「西表島森林生態系保護地域設置委員会」、「世界自然遺産候補地科学委員会」、沖縄県関係では、「沖縄県都市緑化実行委員会審査委員」、大学関係として、「全国演習林協議会理事・監事」、「全国農場協議会委員」、「全国共同利用委員会委員:北海道大学」、「全国共同利用委員会委員:宮崎大学」、その他「NPO法人森林管理協議会理事」、海外では「FSC 国際委員」、「IJFE(国際林業工学学会誌)国際編集員」等で活動しており、今後も引き続き積極的に関与していく。学外の小中高生や一般の社会人を対象としたフィールド科学教育研究センター主催・協賛のイベント等(公開講座、オープンキャンパス、ワークショップ)への積極的な参加。その他の主要な学外での社会連携活動として、国内認証機関の審査委員、ピアレビュー委員として引き続き助言する。	0.20	・学内外の審議会・委員会等については、国(環境省・林野庁)や沖縄県の継続・新規役員として4つ以上を担当し、いくつかの委員会の委員長として活動した。また、北海道大学、宮崎大学主催の共同利用拠点委員会の委員としてその運営に参画した。国内外のNPO法人(FSC International:ドイツ・ボン、FSC Japan:東京)の委員、民間認証企業(SGS Japan)の評価員等もその任を継続中である。農学部やフィールドセンター参画の各イベントにも主催メンバーとして参加した。その他、民間団体依頼の講演等のボランティア活動も行った。以上、社会貢献領域については、ほぼ昨年通りの実績が上げられた。	
管理 運営	0.30	・センターにおける諸管理運営業務(センター長、全国演習林協議会理事・監事)について積極的に関与する。副学部長として学部長を積極的に補佐すると共に、全学・学部の各種委員会メンバーとしての役割を積極的に果たす。	0.35	・フィールドセンター長として、全国農場協議会及び全国演習林協議会に参画し、大学間の交流に積極的に関わった。また、学内の全学、学部の各種委員会メンバーとして積極的に活動した。副学部長としての学部長の補佐、並びにフィールドセンター(千原フィールド/与那フィールド)の管理運営に関しては、ほぼ満足できるものであったと評価できる。	
進路 指導	0.15	・学生の進路指導や就職希望の学生への県内外の就職環境の情報提供や活動への助言を行う。特に、関係の官公庁や民間企業からの特別講師による説明会等の機会設定に努力する。博士後期課程(鹿児島連合大学院)在学中の留学生への積極的な教育指導を行う。	0.10	・研究室の4年生(3名)については、早くから進路指導を実施し、結果、いずれも希望の就職先(民間企業)を得た。また3年生(6名)については、ゼミや個人相談の機会を通して、就活の準備等を指導している。分野長として、農林共生分野所属の学生に対して、卒業認定条件や就職・進学等の指導を学務担当窓口と協力して行った。以上、進路指導に関する一連の活動はほぼ満足できる結果であった。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 光	所 属		農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	1)基礎フィールド実習(1~5組)、フィールド実習 I および造園施工基礎演習の実習・演習科目を担当する。2)情報科学演習、緑化修景施工論、園芸福祉学概論、動植物人間関係学(5コマ)、外国語文献購読 I・II、卒業論文 I・IIを担当する。3)修士課程1年次1名・2年次1名の研究指導にあたる。4)連大学生2名の副指導教員として研究を指導する。5)造園施工基礎演習では、造園技能検定へ挑戦させ全員合格へ導く。			0.28	1)基礎フィールド実習(1~5組)、フィールド実習 I、造園施工基礎演習を担当した。2)共通教育科目および専門教育科目をそれぞれ担当した。3)修士課程学生1年2年次各1名を指導し2年次学生は学会発表1件を指導した。4)博士課程学生2名の副指導教員を担当し、うち1名の学位論文を審査した。5)造園技能検定3級の学科試験挑んだ4人全員が合格できた。		
研究	0.30	1)数種芝草の耐陰性に関する研究を推進する。2)紅茶用茶葉の品質に及ぼす栽培環境の影響に関する研究をおこない、外部資金の獲得を目指す。3)高温耐性菌用いた堆肥発酵による雑草種子の発芽防止の研究を行う。			0.27	1)暖地型芝草の耐陰性研究の試験施設を設置し研究を推進している。2)紅茶栽培に関する研究課題で「産学官金共同研究スタートアップ支援事業」に採択され研究資金を獲得した。3)高温耐性菌による堆肥化施設の設定を推進中である。研究を次年度以降に持ち越しとなった。		
社会貢献	0.05	日本芝草学会評議員、日本園芸福祉普及協会理事、沖縄園芸福祉協会会長、昭和薬科附属高校・中学評価委員、大学附属農場九州協議会幹事としてそれぞれの役割を果たす。			0.10	日本芝草学会評議員、日本園芸福祉普及協会理事、沖縄園芸福祉協会会長、大学附属農場九州協議会幹事のほか、沖縄の道路緑化の在り方に関する検討会委員などに任命されその任にあたった。また、園芸福祉シンポジウムin沖縄、国際増殖者会議日本支部会、日本造園学会九州支部会それぞれの沖縄開催の任にあたった。		
管理運営	0.30	1)フィールド科学センター次長としてセンター長を補佐し、運営を推進する。2)九州農場協議会の当番校として、その運営を担う。3)障がい学生支援室の兼務教員としてその任にあたる。4)各種委員会活動に取り組む。			0.30	1)フィールド科学センター次長としてフィールド会議運営および技術部長としての任にあたった。2)九州農場協議会の当番校として協議会の運営を補佐した。3)障がい学生支援室兼務教員として運営の一端を担った。4)予算委員、研究圃場委員、地域貢献委員などの任にあたった。		
進路指導	0.05	亜熱帯地域農学科3年次の指導教員として、学生の修学指導や生活指導にあたる。			0.05	3年次指導教員として、年次懇談会の開催、1・3年次合同研修会への参加、インターンシップ先の依頼、修学指導(休学等)などを行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		Md. Amzad Hossain	所 属		農学部亜熱帯フィールド科学教育研究	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	1. 学部担当科目(基礎フィールド実習1~5組、作物栽培環境学、外国文献講読および卒業論文)と大学院担当科目(亜熱帯農学特別演習Ⅰ、亜熱帯農学特別演習Ⅱ、亜熱帯農学特別研究Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅱ、亜熱帯農学特別研究Ⅲ、亜熱帯農学特別研究Ⅳ、栽培実践学特論及び熱帯生物資源生産学)及び博士課程の研究指導を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義を実施する。特に実習では農業の基礎を理解できるように務める。 2. 授業評価などの指摘、自らのアイデアに基づく授業の改善を行う。 3. 留学生への受け入れ及び指導を行う。			0.30	1. 学部担当科目(基礎フィールド実習1~5組、作物栽培環境学外国文献講読および卒業論文)と大学院担当科目(亜熱帯農学特別演習Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅰ、亜熱帯農学特別研究Ⅲ、栽培実践学特論及び熱帯生物資源生産学)及び博士課程の研究指導を担当し、熱帯・亜熱帯地域である沖縄の地域特性を踏まえた講義・指導を実施した。特に実習では農業の基礎を理解できるよう指導した。 2. 授業評価などへの指摘、自らのアイデア、新しい情報に基づく授業の改善を行った。 3. 1名の留学生を大学院生として受け入れ、2017年4月末より指導を継続的に行っている。 4. 1名の外国人を研究員として受け入れ、2017年5月末より指導を継続的に行っている。		
研究	0.25	1. 卒業論文、修士課程及び博士課程の学生の研究を行い、その成果として国内外の学会において発表を行い、また学会誌への投稿も行う。 2. 外部資金に関連した研究を実施する。 3. ウコンの栽培に関する研究を行う。またその成果を周辺地域に提供する。 4. 上記研究の成果を学会で発表する。			0.25	1. 3名の4年生の研究・卒業論文、3名の修士学生の研究・修士論文および6名の博士学生の研究、論文作成指導を日々行った。その成果として国内外の学会における発表を行い、また学会誌への投稿を行った。 2. 外部資金5件、計約160万円の資金をもとに、関連したウコンおよび様々な作物栽培に関する共同研究を実施した。 3. ウコンの有機栽培に関する研究を行った。またその成果を周辺地域に情報提供した。 4. 上記研究の成果を国内外の学会における発表(5件)を行い、また学会誌への投稿(2件)を行った。		
社会 貢献	0.20	1. 国内及び国際学会で編集員として活動する。 2. 地域の植物に関する教育に貢献する。 3. 国内外からの訪問者及び研究者に熱帯・亜熱帯地域の作物に関する情報を提供する。 4. 地域の農家及び企業の発展の為、技術指導を行う。			0.20	1. 国内及び国際学会で編集員としての活動を行った。 2. 地域の農業や植物に関する教育の一環として、宮古島と福岡の企業にウコン栽培に関する実地指導、講義を行った。また、ウコンの効能についてレクチャーを行った(我が国が誇る食文化を再発見する番組、NHK)。 3. 講師:第61回九州地区農業実験実習講習会(ウコンの生育、収量及び品質に関する要因について、ウコンの乾燥・粉末方法について)。 4. ウコン「琉大ゴールド」についてレクチャーを行った(和歌山県すさみ町農業委員会)。 5. 国際農学プログラム参加者(Indonesia, Sri Lanka, Thailand, Bangladesh)への沖縄の作物についてレクチャーを行った。 6. 沖縄本島内、その他宮古島・伊良部島のウコン栽培農家、組合に対し実地・技術指導を行った。また地元企業の発展の為、商品開発に係る指導・助言を行った。		
管理 運営	0.15	1. 学内の委員会へ積極的に参加する。 2. 所属部局及び所属学科の管理運営に貢献する。 3. フィールドセンターの圃場グループ全体の管理・運営を行う。 4. 修士及び博士課程の入試に関連する業務を行う。			0.15	1. 学内の委員会(1件)へ積極的に参加した。 2. 所属部局及び所属学科の管理運営に貢献した。 3. フィールドセンターの圃場グループ全体の管理・運営を行った。 4. 修士及び博士課程の入試に関連する業務を行った。		
進路 指導	0.10	1. 学生の教育、研究と就職に関する助言、指導を行う。 2. 学生の生活における相談に乗る。			0.10	1. 研究室所属および所属希望の学生の教育、研究と就職に関する助言、指導を行った。 2. 学生の生活における相談に乗った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高嶋 敦史	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	教育活動では、実習や講義の内容の更新・充実に努める。学生支援活動では、研究室に配属されている学生や年次指導対象の3年生を中心に、研究・学習面で適切なアドバイスを行い、就職などの進路相談にも乗るようにする。		0.25	実習や講義では、情報を更新しつつ最新のトピックや技術も紹介するよう努めた。研究室に配属されている4年生と3年生に対しては、それぞれ卒論研究や英文講読で丁寧な指導を心がけた。			
研究	0.30	奄美・琉球の亜熱帯林に関する研究では、環境研究総合推進費で樹洞の発生状況やイタジイの種子生産量などに関する調査を継続するとともに、二次林の構造に関する取得済みのデータを論文として公表する。屋久島のヤクスギ林に関する研究では、モニタリングの継続とともに、新しい研究を開始するための準備に取り組む。		0.30	奄美・琉球の亜熱帯林に関する研究では、成熟林における樹洞の発生について興味深いデータを得ることができた。イタジイの種子生産に関しても、はじめて豊作年のデータを得ることができた。二次林の構造に関する取得済みのデータは、現在論文投稿中である。屋久島のヤクスギ林に関する研究では、定期的なモニタリングと新しい研究に向けた現地視察を行った。			
社会 貢献	0.15	与那フィールドを使った公開講座の実施や、各種研修の受け入れなどに取り組む。また、国立公園の管理運営にあたりながら世界自然遺産登録を目指す地域の活動に協力する。		0.10	与那フィールドにおいて、公開講座や高校生対象の研修などを開催した。また、世界自然遺産、森林ツーリズムなどに関する地域の委員会に参加したほか、森林組合の研修会の講師なども務めた。			
管理 運営	0.25	「やんばる国立公園」の指定に伴い、与那フィールドとして必要な対応にあたるとともに、利用者の許認可手続き等を支援する。また、公開森林実習の運営や九州地区演習林技術職員研修の開催など、全国大学演習林協議会の業務にも取り組む。		0.30	与那フィールドの施設運営に力を注いだ。利用者からの各種申請手続きでは、問い合わせの窓口となって許認可の判断や調整などにあたった。その他、公開森林実習の運営や、九州地区演習林技術職員研修の開催など、全国大学演習林協議会の業務にも取り組んだ。			
進路 指導	0.00	(教育・学生支援の欄にまとめて記入)		0.05	研究室に配属されている学生に対し、必要に応じて進路の相談に乗った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		波平 知之	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科 フィールド科学教育研究センター	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	①情報科学演習(共通)、フィールド実習Ⅱ(分担)、外国語文献講読Ⅱ、卒業論文Ⅱ(分担)において基礎的・専門的知識や技術習得に向けた実習・講義内容の充実を図る。 ②学生の習熟度を考慮しながら講義内容や講義方法の改善ならびに向上を図る。授業態度と定期試験等から成績をつける。			0.20	①情報科学演習(共通)、基礎フィールド実習(分担)、フィールド実習Ⅱ、外国語文献講読Ⅱ、卒業論文Ⅱ(分担)で、教職員の協力のもと、内容の充実を図った。 ②学生の習熟度を考慮しながら講義内容や講義方法の改善を適宜行い、授業態度、レポートおよび定期試験等から成績をつけた。		
研究	0.25	①南西諸島地域における肉用牛飼養管理に関する実用的研究課題(子牛生産、繁殖牛飼養、草地管理等に関する畜産技術の開発)に取り組む。 ②フィールド科学における動物共生科学の課題研究の発掘を行う。 ③科研等の競争的外部資金の募集に積極的に応募する。			0.25	①投稿論文5報:牛の放牧行動(日暖畜報60:p151-156, 2017)、黒毛和種の産次数と子牛の増体(琉大農学術報に投稿)、イタリアンライグラスの播種量(投稿査読中)、トランスバアラの給与試験(投稿査読中)、15Nのトレーサー試験(投稿査読中) ②パクチー栽培に関する研究の実施(フィールドセンターの技術職員との共同研究) ③科研に応募、学内の研究整備費採択(放牧試験)約100万円		
社会 貢献	0.25	①沖縄畜産研究会の役員として活動・研究会の開催に取り組む。 ②亜熱帯フィールド科学教育研究センター主催の学外向けイベント等に取り組む。 ③地域における共進会や農業者の担い手育成等に参加する。			0.25	①沖縄畜産研究会の役員として活動・研究会の開催に取り組んだ。 ②技術職員と協力して農場祭りを開催した(展示、牛舎見学、研究紹介)。 ③山羊経営技術検討委員会の委員として参加した。第二回牧草コンテストで講演した。		
管理 運営	0.25	①亜熱帯フィールド科学教育研究センターの畜産および広域グループの管理運営等に関する業務に積極的に参加する。 ②亜熱帯フィールド科学教育研究センターや学科の運営に参加する。 ③安全衛生委員、エコアクション21ユニット実施責任者として学部の運営に参加する。			0.25	①子牛販売、肉豚販売、牧草販売、試験圃場の設営に取り組んだ。山羊の人工授精師免許を取得した。 ②亜熱帯フィールド科学教育研究センターや学科の運営に参加した。 ③安全衛生委員、エコアクション21ユニット実施責任者として学部の運営に参加した。		
進路 指導	0.05	①キャリア支援に関する講習会に参加する。 ②講習会を踏まえ、授業の中でキャリア支援を実践する。 ③ゼミ等でキャリア支援に取り組む。			0.05	①キャリア支援に関する講習会に参加した。 ②授業の中でキャリア支援を実践した。 ③ゼミ等でキャリア支援に取り組んだ。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		嬉野 健次	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当講義について、学生が理解しやすいように写真をもちいたりして資料の作成を工夫する。学生が本実験の意義を理解したかを判断するため毎回小テストを課す。研究室の学生の進路の相談にのる。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当講義(専門科目6科目(うち2科目は分担で各2コマと5コマ担当), 実験科目1科目, 共通教育科目(分担2コマ), その他(卒論, 演習)について, 計画通りの講義を行った。研究室の学生に就職情報を随時提供した。</li> </ul>		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費で採択された課題について研究を遂行する。また, 研究成果を学会へ発表する。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費で遂行している課題「ツツジ亜属種におけるCCD4遺伝子の発現と常緑性黄花ツツジ育種への応用」について, 関連する研究内容を, 園芸学会で2回発表した。</li> </ul>		
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞社, 個人などからの植物に関する問い合わせに対応する。また, 熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会の外部評価委員, および園芸学会九州支部評議員を務める。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱帯果樹優良種苗普及システム構築事業検討委員会, ならびに沖縄県試験研究評価会議(野菜花き部会)の外部評価委員, および園芸学会九州支部評議員を務めた。また, 農学部学務係より依頼された高校生の大学訪問(2件), 沖縄県内の農業法人(大地のめぐみ)からのパパイアの栽培に関する相談に対応した。その他, 沖縄タイムス社による, サクラに関する質問に対応した。</li> </ul>		
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代議員, 進路指導委員等の与えられた委員の任務を遂行する。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度担当した学部委員の任務を遂行した。さらに, 全学の委員である国際教育専門家委員, 国際連携担当者連絡会委員, 大学評価IRマネジメントセンター委員(評価部門)を務めた。</li> </ul>		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		川本 康博	所 属	農学部 亜熱帯地域学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	前期:学部担当科目(循環畜産学[4コマ], 家畜環境管理学[7コマ], 熱帯飼料草地学実験, 卒業論文I・II), 後期:熱帯草地学, 草地生産管理学, 人口と食糧[2コマ])を担当すると共に, 研究科担当科目(熱帯草地学特論, 特別研究I・II, 亜熱帯農学特別演習), 連合大学院科目(動物資源生産科学特別講義[1コマ])についてシラバスに沿って講義・実験・演習を行う。インターンシップ(キャリア実習)を海外の大学等とも連携して行うようなプログラムを作成し, 手続き調整等行う。		0.25	前期:学部担当科目(循環畜産学[4コマ], 家畜環境管理学[7コマ], 熱帯飼料草地学実験, 卒業論文I・II), 後期:熱帯草地学, 草地生産管理学, 人口と食糧[2コマ])を担当すると共に, 研究科担当科目(熱帯草地学特論, 特別研究I・II, 亜熱帯農学特別演習), 連合大学院科目(動物資源生産科学特別講義[1コマ])についてシラバスに沿って講義・実験・演習を行った。インターンシップ(キャリア実習)をグアム大学応用生命科学部, ボゴール農科大学等と連携して, それぞれ2名を派遣した。	
研究	0.20	沖縄県, 海外の研究機関, 指導学生・海外研究者と共に各研究内容に沿った2~3の研究論文を発表する。外部資金(2~3事業)を獲得し, 関連組織との共同研究を継続・開発し, 農学研究, 地域農業振興につながる技術や研究開発に努める。		0.20	沖縄県, 海外の研究機関, 指導学生・海外研究者と共に各研究内容に沿った3研究論文を発表した。外部資金(1事業)を獲得し, 関連組織(タイ国農業普及省)との共同研究を継続・開発し, 農学研究, 地域農業振興につながる技術や研究開発に努めた。	
社会 貢献	0.10	沖縄県や関連機関から依頼される委員会並びに調査等の兼業を行うと共に, 県内農家, 農業団体, 高校生等に対し, 研究成果等の普及を推進し, 産学連携事業を進めることによって社会貢献を行う。六次産業化推進に向けたイベントの企画・推進に協力する。また, 国際協力機構の研修コース講師(2つの研修プログラム)と, 鹿児島大学の2件の非常勤講師を務める。		0.15	県内農家, 高校生等に対し, 研究成果等の普及を推進し, 連携事業を進め, 社会貢献を行った。六次産業化推進に向けた「農水産業技術支援展」の企画・推進に携わり, 実行委員として実施した。また, 国際協力機構の研修コース講師(2つの研修プログラム)と, 鹿児島大学の2件の非常勤講師を務めた。名桜大学との遠隔授業を行った。	
管理 運営	0.50	副学長としての職責上の業務(自己点検・評価・IR)を遂行する。併せて, 関連会議の委員, または委員長を務める。		0.40	副学長としての職責上の業務(自己点検・評価・IR)を遂行した。併せて, 関連会議の委員, または委員長を務めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		佐野文子	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.45	教育:家畜衛生学および微生物学の教育を通じて、食の安全、畜産従事者の健康などについての意識の向上を目標とした教育を行う。学生支援:小学校低学年程度の国語の知識(句読点、段落)を確認、徹底することを第一に、応用として履歴書の書き方、ペン字の基本などの進学・就職活動に必要な基礎をアドバイスする。昨年度に引き続き、社会人の大学院進学を積極的に促すとともに、主指導教員として学会発表、論文投稿の指導を進める。			0.45	教育:ほぼ達成、学生支援:基本的なアドバイスを与える以前の問題を持っている学生(日本語の意味を解せない著しく低い国語能力、アルファベットが書けない英語能力)への対応は極めて難しいと痛感した。社会人学生の勧誘は希望者の経済的状況から難しい状況であった。		
研究	0.25	家畜衛生学領域を意識した人獣共通感染症、特に真菌を原因菌とする高度病原性感染症に関する疫学研究およびその成果発表を国内外の研究者との共同研究として推進する。			0.25	国際学会、国内学会発表を通じほぼ達成できた。		
社会貢献	0.20	社会地域貢献:獣医師としての感染症対策などに関する啓発活動および医師、獣医師などからの検体の診断サービスをおこなうにあたり、琉球大学農学部への所属だけでなく、真菌の同定や動物の診断を行うと業務外となるため違法診療になる。そのため無報酬兼業として県内の動物病院のスタッフとしての所属を得たうえでの業務とするように状況を改善する。国際貢献:JICAの日系人研修受け入れを行うとともに次年度も引き続き応募する。			0.20	獣医師として無報酬兼業を行い、診断の実績を得たのでほぼ達成できた。しかしながら、琉球大学 佐野文子としての診断書を希望している依頼先もあることから、現在、大学内に診療所開設を目指し、事務を通じて解決の道を探っている。またJICA日系人研修も滞りなく修了できた。来年度も案件が受理され、引き続き受け入れる予定である。		
管理運営	0.10	教室運営および大学内の各種役割への積極的に参加する。学生の安全への配慮を重視する。			0.10	ほぼ達成できた。個人的に、母の介護があるため休日出勤は難しいが、極力、都合をつけて参加した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平川守彦	所 属		農学部亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部担当科目(循環畜産学、家畜行動管理学、家畜福祉論、動植物人間関係学、外国文献購読)を担当し、他学科、他講座の学生にもわかりやすい講義を行う。大学院では、家畜管理学特論を担当し、活発な討議のできる講義にする。			0.30	学部担当科目(循環畜産学、家畜行動管理学、家畜福祉論、動植物人間関係学、外国文献購読)を担当し、他学科、他講座の学生にもわかりやすい講義を行った。大学院では、家畜管理学特論を担当した。		
研究	0.20	・沖縄の在来家畜である与那国馬とヤギを使用してヒトに対する癒し効果に関する研究をおこなう。 ・アニマルウェルフェアを考慮したヤギとチャーンの放飼に関する研究を行う。			0.20	近親交配を避けるため1歳の与那国馬雄馬を雌馬グループから追い出し、成雄グループに導入し、いっとういう過程を経て仲間とみなす親和行動が起こるかを調査した。10日以内に雄グループの仲間入りすることが認められた。		
社会貢献	0.15	・「闘牛」をうるま市の無形民俗文化財指定に向けての懇話会に参加する			0.15	・熊本県菊池農林高校の学生を放牧地に案内し研究内容を説明した。 ・附属図書館職員20名に放牧地の戦車壕跡に案内し説明をおこなった。 ・「闘牛をうるま市の無形民俗文化財指定に向けての懇話会」が行われる予定であったが、一度も開催されなかった。		
管理運営	0.20	学部においては、代議員、ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行う。			0.20	学部においては、代議員、ハラスメント相談窓口担当者として積極的に活動を行った。		
進路指導	0.15	4年次学生に就職指導を行う。			0.15	4年次学生に就職指導を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内藤 重之	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	<p>学部担当科目については必要に応じて資料を配布するとともに、ビデオ視聴や現地視察等を取り入れて理解しやすい講義を行う。授業終了時に学生から質問と感想を提出してもらい授業の改善に努める。大学院担当科目については意見交換を行い受講生の問題関心に沿った授業を行う。また、都市農村交流や食料・農産物流通等に関する研究成果を授業に反映させる。</p> <p>研究室の学生や担当科目の受講生等に対して進路(進学・就職)についてのアドバイスを積極的に行う。とくに今年度から「キャリアディベロップメント」の世話人を務めることから、学生の進路に関する情報収集などの支援をこれまで以上に行っていきたい。</p>			0.35	<p>学部担当科目については必要に応じて資料を配付するとともに、ビデオ視聴や沖縄県中央卸売市場、JAおきなわ本所、ファーマーズマーケットの視察を行うなど、理解しやすい授業になるよう努めた。また、大学院担当科目についても現地視察を取り入れたり、学生の問題関心に合わせてシラバスの内容を変更したりするなどの対応を行った。さらに、学部・大学院の担当授業とも研究成果を授業に反映させることができ、進路指導などの学生支援も行えたことから、目標を達成できたと考えている。</p>		
研究	0.35	<p>今年度から始まる科研費の研究代表課題および研究分担課題3課題の調査研究を遂行する。また、編著書を含む共著書を執筆し、年度内に3冊程度の刊行を目指す。これらと併せて、日本農業経済学会、日本農業市場学会、食農資源経済学会、沖縄農業経済学会の理事、農業理論研究会の事務局としての役割をそれぞれ果たす。</p>			0.35	<p>科研費等の調査研究をほぼ計画どおり遂行でき、科研費の研究代表課題については研究成果を学生と連名で食農資源経済学会において個別報告を行った。また、共著書の原稿を3報(うち2冊は編著書)執筆し、編著書と共著書それぞれ1冊を刊行するとともに、編著書1冊も年度内に刊行できる予定である。</p> <p>学会や研究会についても役員等としての役割を果たすことができたことから、目標を十分に達成できたと考えている。</p>		
社会 貢献	0.10	<p>沖縄総合事務局農林水産部農村振興課関係の業務における企画競争案件に関する有識者委員会委員をはじめとする国関係の委員、沖縄県卸売市場審議会会長、沖縄県中央卸売市場取引委員会会長、沖縄県農政審議会特別委員、沖縄県経営構造対策推進協議会委員など沖縄県関係の委員等として、それぞれ役割を果たす。</p>			0.10	<p>授業や学内業務の関係で出席できなかった委員会等も若干あったが、当初の目標どおりに各委員会や審議会等の委員としての役割を果たすことができたと考えている。</p>		
管理 運営	0.20	<p>学科長として学科の運営に注力するとともに、全学的な委員会である琉球大学国際沖縄研究所運営委員会の委員として、また農学部の代議員、将来計画委員、自己評価委員、人事委員、入学試験委員、進路指導委員、防火管理委員、中期目標・中期計画推進会議委員、研究戦略会議委員等として、それぞれ責務を果たす。</p>			0.20	<p>学科の管理運営に力を入れ、職責を果たすことができたと考えている。また、授業や出張等で出席できない場合を除き、開催された委員会にはすべて出席し、委員としての責務を果たすことができたと考えている。</p>		
計	1.00				1.00			
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>					<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。      <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		木島 真志	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	セミナーや授業を活用し、学生が大局的な視野に基づく判断能力・思考能力を養えるような環境を整備する。最新の研究事例などの紹介を通して森林資源管理経営の重要性・面白さを伝える。留学希望者の支援及び、留学生の支援を積極的に行う。研究室の学部生・大学院生に対して、進学・就職などの進路についてアドバイスを積極的に行う。			0.40	これまで発展途上国において、定期的に開催したワークショップ等で得た経験を、学内の授業に反映させることで学部担当科目、大学院担当科目の内容がより充実したものになった。また、研究室所属の留学生の奨学金獲得(三菱商事留学生奨学金)に向けて積極的にサポートし、奨学金を獲得できた。		
研究	0.40	科研費の研究代表課題および分担者として参加している調査研究と国内外における他大学・他研究機関と進行中の共同研究(統計数理研究所・宇都宮大学等)を遂行し、その成果発表を国内外での学会にて積極的に行い、学会誌へ投稿する。新たな外部資金獲得(科研費)のための申請書を準備し応募する。			0.40	自分が代表の科研費(萌芽:16K12641)と、分担している科研(基盤A:17H00806)および二国間交流事業共同研究における共同研究をほぼ計画どおり遂行できた。また研究成果の一部を国際誌(2本)に発表した。		
社会貢献	0.10	学外の審議会等(県内:2)へ参加し、積極的に情報交換を行う。国内外の学会・研究会の運営に積極的に関わる。さらに、発展途上国における教育支援として、モデリングのワークショップで講義する。			0.10	目標どおり学外の会議に委員として参加し、積極的に議論を行った。国内の学会・研究会のおよび国際学会の運営を積極的に行い、委員としての役割を果たすことができたと考えている。		
管理運営	0.10	広報委員、進路指導委員、電算機室運営委員等の委員としての責務を果たす。さらに、教職担当教員として、学生の教員免許獲得に向けてサポートする。			0.10	目標どおり責務を果たせたと考えている。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉村 泰彦	所 属		農学部 亜熱帯地域農学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	①学部については、URGCCで掲げられた目標を達成しうる講義内容を構築するとともに、より深い学びへ接続できる内容とするよう努力したい。 ②大学院修士課程、および連大博士課程については、本人の素養と問題意識を表現しうる論文の作成を目標として指導したい。			0.40	①については、より努力が必要なものの一定の成果はあった。②についても鋭意取り組み、論文投稿に結びつけることができた。しかし、学位論文の作成が次年度へ持ち越しとなったので、引き続き、目標に沿って指導したい。		
研究	0.40	①採択中の科研費基盤研究(C)(一般)が最終年を迎えることから、遅滞なく完了させる。②また、次年度以降の科研費を基盤(C)で応募する。③分担研究者として参画している科研費プロジェクトにも鋭意取り組む。			0.40	①については、研究上の課題を残しつつも、概ね申請時の目標を達成できた。②および③についても目標を達成できた。		
社会 貢献	0.10	本年度は①沖縄総合事務局「農山漁村振興交付金選定委員会委員」、②同「国営宮古土地改良事業計画専門技術者」、③中央畜産会「軽種馬経営高度化研修委員会委員」などへの就任が見込まれており、それらを通じて、地域および産業への貢献を目指す。			0.10	①～③に加え、うるま市農業委員会委員候補者選考会委員、農業農村整備事業等補助事業事後評価技術検討会委員、中山間地域所得向上支援対策等の手続きに関する外部有識者委員などについても職責を果たした。		
管理 運営	0.10	前年度に引き続き、学部教育委員、全学学士教育プログラム委員会を中心に責務を果たしつつ、年度内に追加される業務についてもより良い成果を目指して努力する。			0.10	当初から予定されていた委員等に加え、農学部本館改修ワーキンググループなどにも就任した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大田 伊久雄		所 属		農学部 亜熱帯地域農学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.40	森林政策学の授業において、小テストやレポート、学生によるプレゼンテーション等をまじえて出来るだけインタラクティブな授業をするよう工夫をする。森林政策学実習では、学生のレベルとニーズにより適合した野外実習メニューとデータ分析方法を採り入れる。研究室のゼミでは、他の教員と協力しながら、学生の自主性を尊重しつつ卒業論文・修士論文に向けて着実に学力を身につけられるような指導を行う。				0.40	森林政策学の授業は農林経済学コースだけでなく、他コースや他学科の学生も多く受講し、目標としたインタラクティブな授業を行うことができ、概して皆よく勉強した。森林政策学実習は昨年度より1日長い6泊7日の日程で行い、鹿児島大学高隈演習林スタッフの協力のもと、昼間の林業実習と夜のグループ学習ともに充実した学習ができた。研究室ゼミでは、充実した現地調査と毎週のゼミ学習を行うことができ、卒業・修了予定の全員が内容の濃い論文を書くことができた。				
研究	0.40	昨年度末まで研究分担者として参加していた科研費研究の成果を共著書として発行する。また、研究分担者として参加しているもう一つの科研費研究が取り纏めの時期に来ているので、成果の学会誌投稿を行う。9月にドイツで開催されるIUFRO国際学会に参加し、口頭報告を行う。				0.40	分担研究者として執筆した科研の成果は、今年度中に刊行される予定である。9月のドイツでのIUFRO国際学会では口頭報告を行った。また、その学会で再会した旧知のポーランド研究者からの依頼を受けた英文論文をポーランドの学術書の1章として執筆した(2月刊行)。				
社会貢献	0.10	林業経済学会評議員として学会運営に貢献する。7月にやんばる地域において西日本林業経済研究会を主催する。現在担当している地方公共団体の委員会委員等の役職を引き続き務め、さらに要請があれば参加の範囲を拡大する。				0.10	7月にやんばる地域において西日本林業経済研究会を主催した。沖縄県内での開催は初めてであり、参加者は10を超える大学・研究機関から約45名であった。林業経済学会評議員や地方公共団体の委員会委員として県内外の多くの会議に出席した。また、森林認証制度(FSC)の審査委員として、専門知識をいかして高知県内の森林組合における森林認証の年次監査に参加した。				
管理運営	0.10	農林経済学分野長、図書館運営委員会委員、図書館自己点検・評価委員会委員、人を対象とした研究(医学系除く)の倫理審査規則・委員会発足準備ワーキンググループ委員、人事調書作成委員会委員。				0.10	農林経済学分野長、図書館運営委員会委員、図書館自己点検・評価委員会委員、人を対象とした研究(医学系除く)の倫理審査規則・委員会発足準備ワーキンググループ委員、人事調書作成委員会委員としての職務を遂行した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					